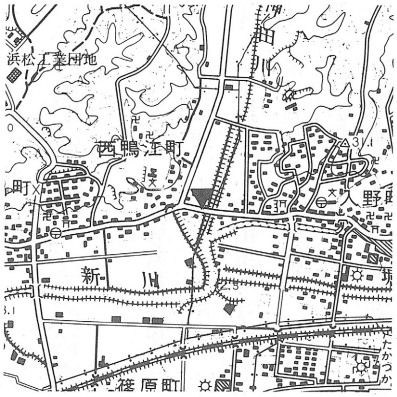
静岡・角江（かくえ）遺跡

1　所在地　静岡県浜松市入野町字角江
2　調査期間　一九九一年（平3）四月～一九九四年三月
3　発掘機関　(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
4　調査担当者　平野吾郎・内藤朝雄・塚本裕巳・中嶋郁夫
5　遺跡の種類　集落跡・水田・自然流路
6　遺跡の年代　縄文時代後期～中世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

角江遺跡の調査は、浜松市西部の新川に注ぐ東神田川の拡幅工事に伴い行なわれた。遺跡の範囲は東神田川の右岸、現在の雄踏街道を挟んだ南北約四〇〇mの間に存在する。弥生時代では集落跡とともに方形周溝墓群や土器棺墓、縄文時代から続く自然流路、水田などが検出され、特に自然流路からは大量の土器や石器、農耕具を中心とした木製品が出土した。中世では道路状遺構と、それに接するように存在する区画溝や井戸、水田などが確認された。中世の主たる時期は鎌倉～室町時代である。



（浜　松）

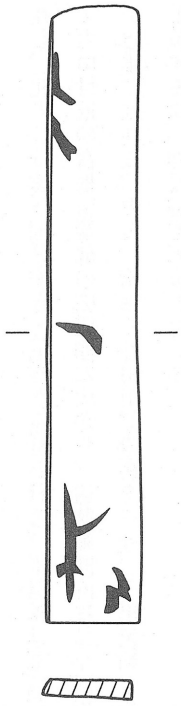
木簡は中世の素掘り井戸のほぼ底面より発見された。同遺構の遺物は漆椀、羽子板状木製品、容器の底板状木製品とともに、木片などの有機物や石が多く出土している。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「□□□」　104×(15)×3.5　081

上下両端とも欠損していないが、左側が縦割れしている。本来の大きさや形状、用途は不明。ヒノキ材の柾目板。

9　関係文献

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所『角江遺跡Ⅱ　遺構編』『同　遺物編2（木製品）』（一九九六年）

（中川律子）